

2023.12.6(水) 第1回縮充のまちづくり検討委員会@防災会議室 19:30-21:20

〔出席〕名簿のとおり(欠)幸田総務課長

○進行：企画防災課 入江

○委員長あいさつ(作野さん)

- ・縮充とは何か?どうやって作っていくか?  
人口が減ると比例して、住民の幸福度が減るのでない考え方について考えていく
- ・2023年度は歴史的な変換期(松江市中心部でも、ある路線バスの全廃止が決まった)急激にこれまでの構造が崩れている(ここまでは予測できなかった)
- ・縮充のまちづくりに取り組むのは、佐用町が全国で一番のりとなる

○自己紹介

- ・作野さん・・・2005年から佐用町のまちづくりに関わっている  
松江市在住、中学生の子どもが一人
- ・柏木さん・・・今年8月縮充デザインLabを立ち上げた  
6つの地域づくり協議会にかかわってきた  
これから、皆さんと充を考えていきたい
- ・西川さん・・・真庭市立図書館長/埼玉県在住/滋賀県出身  
埼玉市でまちづくり(人が集まらない地域での地域活動)を展開  
充=遊びを取り入れるという部分  
真庭図書館=市民自治の拠点として、新しい暮らし方を考えている
- ・矢内さん・・・消防団での取り組みも発表したい
- ・大久保さん・・・真宗に住んでいるので、買い物や生活の拠点は山崎町
- ・高見課長・・・各種行事の参加が減っている、縮充に向かいたい
- ・加藤さん・・・長谷助け合い隊に取り組んでいる
- ・谷口さん・・・大阪出身、2人の子の子育て中
- ・山崎課長・・・高齢者が最後まで暮らしていくため、縮充に取り組み合い  
子ども2人が佐用町で就職している、子どもたちのためにも考えたい
- ・竹内さん・・・民生委員16年間、この立場で協力できることはしていきたい
- ・神原さん・・・子どもたちが幸せに暮らしていけるまちづくりを考えていきたい
- ・佐伯さん・・・4月~縮充戦略AD就任、皆さんの知恵をお借りして、考えていきたい
- ・井口さん・・・今朝の神戸新聞に記事掲載された、縮充はいい言葉だと思った  
いかに人口減少を抑制し、充実した生活を送るか
- ・真鍋さん・・・春に取材した縮充に反響が大きかった  
他の市町も共有してかかえる課題、佐用町は一步リードしている
- ・福田さん・・・50歳まで姫路の企業で務めていて、帰ってきて農業を始めた

JA 兵庫西の理事、農業委員会会長、地域計画にも取り組んでいる

- ・宇多課長・・・国の教育振興基本計画見直された  
2本柱：持続可能な社会の作り手の育成・ウェルビーイングの向上
- ・衣畑さん・・・宝蔵寺集落 18 戸になった、空き家が 3 件あり誰かが入ってくれば  
元 JA 職員、赤穂で農業指導員
- ・真岡さん・・・姫路で約 60 年間過ごしたのち、佐用に帰ってきた  
建設業（県営、市営住宅など）で高度成長期を経験したため、  
急速な人口減少、それに伴う課題などの現状に戸惑っている
- ・大下課長・・・職員と一緒に、縮充の実現にむけて頑張っていきたい

(佐伯 AD 説明)

- ・人口減だが、世帯数は減っていない（世帯内人口が減っている）
- ・20 歳代、特に女性が減っている
- ・学校も統廃合しているが、出生数が更に減っているの、今後はもっと深刻になる
- ・2009 年の水害の影響もあると思うが、企業も大きく減っている
- ・いろいろなものが、おのずと減っている状況にある
- ・縮充のきっかけ？  
みん活⇒AD 合宿⇒地域づくりの見直し＝これからは行政の見直しが必要では？  
その上でのキーワード「縮充」⇒町全体のまちづくりの方向性とした
- ・委員会の目的：縮充は概念でしかない（共感をいただいている）⇒具体的な取り組みを
- ・縮：起こっている縮でなく、積極的な縮（仕組みや制度を変える）が重要
- ・充：何もしないと充実しない、活性化とは異なる価値観
- ・通常、このような委員会は、ある程度の答えがあるが、縮充は本当に落としどころがないので、みんなで考えていくしかない
- ・総合戦略（3 つの基本方針）ですでに示された方向性⇒縮充という言葉でまとめられた
- ・ミライカイギ：若い世代で考えだしている
- ・地域：みん活をきっかけに対話が生まれている、取り組みも進められている
- ・役場：職員でも考え、話をし始めている
- ・地域には must が多い（やらなければいけないこと）、これからのことを考えていると will の話（やりたいこと）が出るが、must が多くてやれないことがおおい  
これからは can（できること）を考えていくことが重要になるのではないか

(谷本説明)・・・資料 1・2

- ・縮充のまちづくり検討委員会の役割
- ・今後のスケジュール

## ○意見交換

(矢内さん) 消防団長

- ・ 団員数の減少が課題→R4に全団員アンケート、全分団との意見交換を実施した
- ・ その結果、訓練は必要だが、団員の過度な負担を減らす、やりがいのある活動で、地域に貢献していること実感できるように、基本方針を設けた
- ・ 通常点検と有事の際の対応を先輩から伝えていくことも大切
- ・ 消防団の活動を知らない若者がいることが分かったので、知ってもらう広報活動が必要
- ・ 女性消防団員の確保にも取り組んでいる（活動しやすい時間帯に活動してもらう）
- ・ 消防団員 OB を中心に消防協力員になってもらっている
- ・ 若い世代の加入につなげていきたい（世代間の交流、同世代の交流の場として）

(井口さん) 商工会長

- ・ 買い物難民への対策として、移動販売車の導入を検討したい（町へ予算要望）  
移動販売事業は、佐用町は谷が多いので移動が大変で、儲けにつながるものではない  
しかしながら、安否確認も兼ねているので重要である
- ・ このように拡充すべきこともある＝充の部分
- ・ これからの商工業は農業も含めて、流通を考えることも大切  
（例えば、家庭菜園の野菜を売ることができるような仕組みも）

(加藤さん) 地域づくり協議会代表センター長（長谷地域づくり協議会）

- ・ 地域づくり協議会は、地域をどう動かしていくかを考え、活動する組織
- ・ 私は皆が幸せに暮らせる地域を作りたい
- ・ これまで公民館活動の延長でイベント中心だった、イベントに来られる人は決まっている  
イベントに来られない人ための取り組みも重要（イベントからの転換）
- ・ 長谷助け合い隊は、住民の困りごとを手助けしているが、作業終了後に話を聞いてあげる  
ことも大きな役割である（幸せに暮らせる根っこづくり、これが地域住民の充）

(大久保さん) 公募委員

- ・ 佐用町の端っこの集落に住んでいる  
自身は子供がいないので、地域と関わるのが少ない
- ・ 大雨の際、土嚢を作ることがあるが、作り方を知らない  
女性消防団を募集していると聞いたが、消防団への入り方も分からない
- ・ さよさよサービスに物を載せて運ぶことはできないのか？
- ・ 今、60-70歳代の人がボランティアでやっていることが、若い世代の仕事になるのでは？  
（今後、今みたいにボランティアをする人がいるのか、できる余裕があるか）

(谷口さん) 佐用地域女性代表

- ・義母に代わって、地域の祭りの準備などに参加するようになった  
子どもは楽しんでいるので残したい事業  
世話人（70歳代くらい）は楽しそうに準備をしているが、若い世代は楽しいと思えるのか、今後若い世代でやれるのかが課題と感じる
- ・地域外から手伝ってくれる人があってもいいのでは

（竹内さん）民生委員児童委員連絡協議会副会長

- ・社協でいきいきサロンを進めてきたが、数年前にご近所ネットワークに変わった見守り活動などの重要性が高まった
- ・社協は、毎年自治会長と福祉委員を中心に説明されているが、民生委員に話が伝わってこない集落があるので、ぜひ情報提供いただき、民生委員も巻き込んで欲しい  
➔（社協 真岡会長）
  - ・コロナで各集落でのいきいきサロンも難しくなった（だいぶ復活してきたが）
  - ・現在、新たに見守り隊の制度を検討中

（衣畑さん）連合自治会副会長

- ・いきいきサロンは、顔をあわせることが重要（車社会で住んでいても会うことが少ない）
- ・田畑を所有していても、管理を任せてしまっていて農地と離れている人が多い  
今後、担い手も少なくなれば、田んぼ作りは受託しているが、畦の草刈りまでは担えないと言われる状況になるかもしれない
- ・農業が身近でなくなってきたので、田舎でも稲作を知らない子供がでてくるのでは

（福田さん）農業委員会会長

- ・昔は、地域にも夫人消防隊があった（バケツリレー訓練など）
- ・乙大木谷に80aの田があるが、棚田も耕作放棄地が増えている
- ・佐用町は農業支援が手厚い、特産のもち大豆農家が増えている
- ・子どもたちの地産地消を推進することで、農家を支援することにつながれば子どもたちが農業に触れることで、若手農業者が出てくることも期待したい  
食が重要なので、大事にしていきたい

（真鍋さん）神戸新聞社佐用支局長

- ・買い物難民：三田市では路線バス事業者やJAと連携し、貨客混載を行っている
- ・イベント疲れ：コロナ後にイベントが復活しているが、マンネリでしんどくなっている  
見直す時期にきていると感じる
- ・もち大豆：米の売値が安く、肥料代も高いが、大豆は経費が安いのでやりたい人が多い  
しかし、大豆栽培には、獣害対策が必須であるという課題もある  
農家が儲かるような仕組みが大切だと思う

(神原さん) 上月地域若者代表

- ・消防団に入っているが、新入団員を誘うことが難しくなっている  
佐用町にいない人（仕事場が姫路とか、実家にいない人）が多い
- ・佐用高校の学生減が進んでいる（5クラス、1クラス40人いない）  
上月小 PTA 会長をしていたが、子ども数が減で、保護者数も減となり、なり手がない  
子ども会数も減っている
- ・自身は40歳代だが、これからは20歳代くらいの本当の若者の意見が重要  
（40歳代になると考え方が固定してしまっている）  
同世代の集まりは意見が共感しやすいので、そのような機会が増えればよい

◎有識者委員講評

(西川さん)

- ・佐用町に関わるのが初めてだが、今日皆さんのいろんな気持ちや現状を知ることができた
- ・充がキーワードとなると思う（佐伯 AD 曰く活性化とは異なる価値観）  
充＝「楽しい、おいしい、ありがとう」などの言葉に置き換えると分かりやすいかも  
どんな前向きな言葉が増えていったら、充が増えるか
- ・皆さんから佐用町を大切に思う気持ちを感じた＝これが「愛着」では  
佐用町で何かをしてきた経験が愛着を産むと思う
- ・真庭市「遊ぶプロジェクト（遊びの場を増やす）」を実施、遊ぶ＝何かをやってみること  
一度町を出た子が帰ってくる、また出ていかないかは、18歳までにここ（佐用町）なら  
何かをやれるということを感じられるかどうか重要
- ・「やってみることができる町」そんなまちづくりができればいいと思う
- ・まちづくりのプロセスは、「失敗してもいいので、やってみる」こと

(柏木さん)

- ・変わっていかなければいけないことを前向きに考えなければいけない
- ・佐用町民は本当に真面目  
＝変化していくことに、石橋をたたいてしまう（やれない）＝やってみようが苦手  
変わることにトライ＝失敗してもいいという感覚が重要
- ・先日の地域支援で「でも」「だって」「いや」の発言からは前向きな意見は出ないと話した
- ・この検討委員会で、何が明らかにできればいいか？  
「考え方、やってみよう、考え方」のキーワード重要＝この会で可視化できれば  
（充の暮らしのイメージが見える化できれば／具体的にどう取り組むのかの事例）
- ・こうなると、佐用町の縮充のまちづくりが全国に発信できるのではないか

(作野さん)

- ・失敗してもいい地域づくり＝信頼し合える関係がないと無理

そのためにも、人同士が出会えて、関係性を築いていくことが重要

- ・西川さんが図書館長をされているが、図書館や教育なども重要になってくる

○その他

- ・第2回検討委員会：2/28(水)19:30-@役場会議室

○閉会あいさつ 矢内さん

- ・大久保さんから女性の消防団加入についてお話があった

これからは、女性の力をお借りしながら消防団活動を維持していきたいと言いながら、仕組みが整っていないことが課題なので、女性団員のあり方について検討していきたい

- ・今日の協議内容を所属団体等にも共有いただき、また意見を持ち寄っていただきたい
- ・いい方針につなげたい

# 2023.12.6 縮充のまちづくり検討委員会

全体

@意見交換

消防団

商工

地域づくり協議会

地域住民

全分団員  
アクトの実施

退団された方  
に協力員に

地勢を元め  
新入団員の  
募集につなげる

実際に必要  
訓練活動

商工+  
消防団  
「軸」

家族  
の元  
を元め  
する

幸せに暮らす  
地域づくり

地域住民  
アンケート

地域の困り  
地域で解決

地域住民が  
喜んで住める

世帯が  
消防団に入る  
方法分ける

とつた  
参加者  
の状況

ボランティア  
を元め  
若者の住居

さよさら  
ビス製品  
見せ

地域の祭り  
今後出来る  
か...? 不安

若い人は  
住んで  
見せたい

地域間の交流  
自治会を元め

地域(自治会)  
が情報交換  
の場になる

顔合わせ  
機会  
づくり

農業と地域の  
活動に若者が  
参加できる仕組み

恒久的な  
農家が  
集まる

学校給食に  
地域地産物  
を使っている

若い人が  
農業出来る  
支援

縮充の中心に  
農の力を元め

貸家業の  
事例  
(他市町)

コロナを元め  
見直す時期が  
きているのでは?

農家が住める  
仕組みが必要

子供共が  
本当に少ない

学校のクラス  
PTAの存在が  
減少している

元のイメージ  
たくさん必要  
がある

失敗を  
許せる環境を  
作る

「アクトの場」  
で暮らす  
=何かしている  
場

お互いを認め  
環境づくり

何かをやる  
出来る場所が  
あればいい

変化してもいい  
そういうワード  
がほしい

若い人の意見  
も大切

元の暮らし  
のイメージ共有  
出来る

たはははーんたの？

「た、どう  
言いかえられ？  
たのしい、おもしろい！  
おもしろい

たははの  
キーワード  
の見え方

変わる  
これまでに  
こたわりがない

言はれる

愛着  
このまじり何かがあつた

ミライカイ  
実行委員会でも  
話題に！

受け入れる

兼ねる

たはは、  
がてきま